

## 【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

学校名	吉野ヶ里町立東脊振小学校		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である			
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校目標の『賢く』に通じる「学力の向上」については、小中で連携しながら校内研究でも取り組んだが、取り組み内容の徹底が不十分で児童の基礎学力の定着までには至らなかった。県調査においても目標に掲げた結果を出すことはできなかった。</li> <li>学校目標の『優しく』に通じる「心の教育」については、日々の生徒指導の取り組みで大きな事件・事故等はなかったが、日々の学校生活における基本的な生活習慣（言葉づかい。トイレのスリッパ並べ等）についてはまだ課題が残っている。</li> <li>学校目標の『たくましく』に通じる「健康・体つくり」や「業務改善」「地域愛」等については、一定の成果は出せたものの課題も明らかになった。今年度はその課題克服に向けて、具体的な手立てを講じながらより一層の努力を行っていく必要がある。</li> </ul>					
2 学校教育目標	夢に向かって 共にがんばる児童の育成 ～かしこく やさしく たくましく～					
3 本年度の重点目標	<p>①学習環境（学習規律・教室環境・生活リズム等）を整え、児童の実態に応じた授業づくりを行うことで、児童の主体的な取り組みを促し、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。</p> <p>②学校生活での約束や学習規律についての職員間の共通理解の上に、児童理解を深め支持的風土の学級経営に取り組むことで、人の持ち味を理解し、友達・家族を尊重し補いあえる児童の育成を目指す。</p> <p>③体育の時間の充実や休み時間の外遊びの奨励により、児童の体力アップを図ると共に、様々な体験活動や地域との交流を通して自分に自信をもち、チャレンジ精神と粘り強さ、郷土愛を育てる。</p>					
4 重点取組内容・成果指標			中間評価	5 最終評価	主な担当者	
(1)共通評価項目	重点取組	具体的な取組	中間評価	最終評価		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	A		学力向上コーディネーター 研究主任	
	○基礎的・基本的な内容の定着 ・学習規律の徹底 ・家庭学習の充実	○授業前に、「次の授業の準備ができる」と答える児童を90%以上 ・各学年の自安の家庭学習時間を提示し、児童に各自で目標時間を設定させて、「家庭学習がんばろう週間」に取り組ませる。	B		学力向上コーディネーター 研究主任	
	○児童生徒が、自他の命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身につける教育活動	○「友達と仲良くできている」「良いこと悪いことを考えながら生活している」と答える児童を90%以上 ・心を豊かにするために読書活動推進 学年目標冊数達成児童を85%以上	A		人権・同和担当	
	●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ・予防的、開発的な生徒指導の推進	○「いじめ防止等について組織的対応ができる」と答える教師を90%以上	A		生徒指導部
	○児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「自分の夢や目標に向かって努力している」と答える児童を85%以上	B		教頭	
	●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●望ましい食習慣や「早寝・早起き、朝ごはん」の大切さを理解し、アンケートにおいて「毎朝、ご飯を食べて登校している」と答える児童が100%	B		保育部(食育)
	○運動機会の確保と規則正しい生活習慣の確立	○アンケートを行い、朝の時間、休憩時間や昼休みにおいて、「元気に体を動かした」と言える児童の割合を70%以上を目指す。 ○アンケートを行い、「早寝」「早起き」の児童の定着率を80%以上を目指す。	B		保育部	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の縮減	●業務効率化を図り、時間外勤務の月平均を45時間以内にする。	B		教頭
	○教職員の勤務意欲の向上	○教職員の勤務意欲の向上	○「仕事にやりがいを感じている」と答える教師を85%以上 ○休暇取得率の向上(前年度より増)	A		教頭
	(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組	具体的な取組	中間評価	最終評価	主な担当者
○あいさつ	○進んで元気なあいさつができる児童の育成	○自分からあいさつができたと答える児童90%以上を目指す	B			
	○自然やふるさとを愛する児童の育成	○東脊振の良さを「低学年1つ以上、中学生3つ以上、高学年5つ以上」と言える児童を85%以上	A			
	○特別支援教育の充実	○特別の配慮を要する児童の理解が深まり、対応できることが増えたとい教師90%以上	B			
<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>5 総合評価・ 次年度への展望</p>						